

## 森林インストラクター資格試験後の基礎研修

# 自然観察「植物を覚える・解説する」

2018年11月11日(日) 晴れ 多摩森林科学園

「FIT友の会」の基礎研修第2弾、自然観察「植物を覚える・解説する」を多摩森林科学園で実施しました。色々な植物を覚え、自然観察会で植物の解説・インタープリテーションの一端を体験して貰うことが目的です。

高尾駅に集合して駅前で開会式を行い早速植物観察です。駅舎の花壇のハナノキとサルノコシカケについて、講師の石井さんの解説を聞きました。研修会場の多摩森林科学園まで移動する途中ではイチヨウ、キリ、モミ、ジュウガツザクラ等の樹木、ヒメジョオン、カラムシ、クズなどの草本について解説がありました。

多摩森林科学園では葉っぱが緑色をしている訳、気孔の働き、落葉する理由、肥料3成分が効く処等の解説して頂きました。ヌスビトハギやフジカンゾウの実がくっつく仕組みをルーペで観察し、ピラカンサの実のつき方（実を沢山付けている枝と美を全くつけてない枝がある）の特徴、リンゴやナシ等のバラ科の実の造りはリンゴやナシとモモやウメで異なっていること、葉っぱがなぜ紅葉して落葉するか等々、多岐に亘る解説を聞きました。



高尾駅前でハナノキとサルノコシカケを観察

インタープリテーションについても、難しい話から始めない、目で見える物で説明する、五感を使って説明する、専門用語は使わず言い換える、しゃべりながら相手の顔を見る、タネはすぐには明かさない、参加者に質問する、詳しい人に話してもらおう、聴いていて楽しいのは脱線した話しなどなど、沢山の勘所を教えて頂きました。

午後は実習で、自然観察会を想定して、友の会会員一人ひとりが植物を解説する事を体験しました。第二樹木園を歩いて解説する植物を探し、図鑑で解説する為の情報を収集しました。集めた情報のメモを見ながら、一人5分程度で解説しました。聞き役の会員は解説の良かった点を指摘し、講師からコメントを頂きました。会員にとって初めての植物解説で緊張気味でしたが、午前中の講師の解説や勘所を早速取り入れ、専門用語は使わない、五感に訴える、一方的な説明ではなく質問等を交える等、全員が判り易く、聴いていて楽しい解説でした。

自然観察の基礎研修は「友の会」として初めての取り組みです。植物解説の体験と講師のインタープリテーションを聞きその勘所を掴み、友の会会員の皆さんが本日の講師、石井さんレベルの解説ができるようになることを最終目標にして研鑽されることを期待します。

参加者：荒木さん、安久さん、小野さん、芝原さん、福山さん、古谷さん

講師：石井誠治さん

スタッフ：小川里花さん

(報告：FIT友の会運営部会 榎田幹夫)





ジュウガツザクラを観察【コブクザクラとの違いをメモ】



満開のジュウガツザクラ【サクラサク！】



ヌスビトハギの実がくっつく仕掛け



ピラカンサの実のつき方



実習：ヒサカキの解説【漢字できへんに神と書きます】



実習：コウゾの解説【繊維が長く和紙の原料です】



実習：クスノキの解説【樟脳の香りです】



実習：ドウダンツツジの解説【紅葉がきれいです】